POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」
第 54 号　2004.6.1

発行
北海道ポーランド文化協会
〒069-0851
江別市大麻園町 28-18
小笠原正明
電話　011-386-3405
FAX　011-387-9016

リレーエッセイ

ワルシャワ点描

山川　素子

グダンスクに二年間暮らし、すっかりなじんでいたこともあり、「首都」に住むことになった時には、正直気が進みませんでした。でも、ポーランド一の過密都市とは言え、規模はふるさと札幌とほぼ同じ―今ではここワルシャワも大好きな町の一つです。

市の中心部は、以前に増してホテルやオフィスビルの建設が活況を呈しています。去年はウエスティン、インターコンチネンタルと外資系の高級ホテルが立て続けにオープンしました。この「ワルシャワの摩天楼」を眺めるのに格好の場所を発見しました。中央駅西側をはしるヤン・パヴェウ（ヨハネ・パウロ）二世通りを南下し、名称がニエポドゥレグウォシチ通りに変わって間もなく、国立図書館前の歩道橋の上です。昼間は気に留めることもなかったのですが、夜景として浮かび上がったビル群は、思わず立ち停まって見とれてしまうほど、普段とは違った美しさをたたえていました。

ワルシャワのコーヒーショップ

中央駅周辺では少なくともあと数件、ビルや大規模商業施設の建設が行われており、大型クレーンがあちこちに見渡せます。その他街中（まちなか）で急速に普及しているのは、何といってもスターバックス風のコーヒー・ショップでしょう。特に新世界通りにさまざまなチェーンの出店が集中していて、若者やビジネスマン達でどこもにぎわっています。ごく数年前まで、まともなコーヒーなど注文すべくもなかった状況がウソのようです。日本料理店も流行の一端で、このところ目に見えてふえてきました。日本・韓国人以外の経営も数を増しているようで、その全てで本当に日本食と呼べるものが提供されているかは定かではありませんが…。

オペラ劇場の裏

手＝無名戦死の墓に面しては、斬新なデザインのビル「メトロポリタン」が出現しました。オフィスビル部門二〇〇三年の世界最高作品として、この三月カンヌにあるMIPIMという国際組織から表彰されたそうです。英国の建築家Norman Foster氏によって設計されたこの建物、構造は「鮭缶ほどの縦横比率でほぼ円筒状」ーと言って、うまく想像していただけるでしょうか？　柱状ではなく、筒というのがポイントです。完全にオープン・エアの中空部分は噴水とベンチが配され、パブリック・スペースとして開放されています。

オフィスビル「メトロポリタン」

今年の復活祭は四月十一日。三月末に夏時間に切り替わり日差しが明るさを増すと共に、玉子やウサギ、雄羊などの縁起物が店先に並べられ、春の気分を一層盛り立てています。

カトリック最大の祭日を前に、市民はいつも通り浮き立っているようには見えますが、「テロに対する警戒」が呼びかけられている点が、例年とは明らかな違いです。

ポーランドはEU加盟にあたり、表決方法の採択をめぐって利害を共にするスペイン（テロ発生以前、改選前の内閣）と近年とみに接近していたこともあり、先日三月十二日のマドリッド同時多発列車テロに対しては、九・一一以降一連のテロ事件中、最大の衝撃を受けた感があります。あれ以来「国内でのテロへの危機感」が一挙に現実味を帯びて意識されるようになり、特急列車に警官も乗車して巡回が行われるなど、実際のテロ対策が市民にも目に見える形でとられ始めました。私は市の中心部に住んでいるのですが、数日前警察の訪問を受け、とてもびっくりしました。四月末にワルシャワで予定されているEUサミットの警備にあたって、関係会場の周囲半径二km内の建物については居住者もくまなく調査することになったからだそうです。「まさかそんなことが起きるはずはない」と願ってはいますが、今この地球は「安全」だと言い切れる場所など無いに等しいほど、紛争と混迷の渦が加速度を増している印象をぬぐえません。

EU加盟ユーロ導入まではまだ最低二年あるとしても、果たして物価がどう動くのか？　値上がり説のつよい「新車と住宅」などは、かけ込み需要を呈し、電話・通信料金は寡占の解消による値下がりが見込まれています。EU加盟にあたっては財政再建が必須条件であり、その手腕が期待されて〇一年末誕生したミレル政権でしたが、諸大臣の不祥事と政党の内輪もめだけが相次ぎ、財政面では実効的な手立てが何一つ示せないままに政局の不安・交代を招いています。

五月一日にEUに加盟後、長期的にはポーランドの諸情況が全体としてよい方向に向かうことを信じ、そう願って、この国の行方を見守りつづけたいと思っています。

（日本語教師・
ワルシャワ大留学生）

吉田　宏　先生を悼む

小笠原　正明

北海道ポーランド文化協会（協会）の創設者のお一人である吉田宏先生は、昨年六月一九日にご逝去されました。北海道大学教授を退官されたのち旭川工業高等専門学校の校長になられ、その職を全うされてからわずか一年あまりのことでした。先生の存在は協会にとってまことに大きなものでしたが、先生もまたこの組織のことを最後まで気にかけておられました。

先生とポーランドのかかわりについては、ご自身が「クロー先生のことなど」という題で一九〇年一月のポーレ十号にエッセイを書かれています。一九六五年の三月にスウエーデン留学の帰途にポーランドに立ち寄られ、ウッチ工科大学のクロー先生にはじめて会われました。ご自身の言葉を借りると、「ただ遊びに行くという当時としてはいささか後ろめたい動機で興味本位に訪れたポーランド」であったが、大勢の先生や学生の前で晴れがましい学術講演を行い、はじめて一人前の研究者として遇されたとのことです。

おそらく中世ヨーロッパ以来の伝統だと思いますが、アカデミズムの世界では遠路はるばるやってきた同学の士を、セミナーと晩餐で接待するという習慣があります。クロー先生はそれを忠実に実行されたのでしょうが、その時に、この少壮の日本の学者が豊かな才能に恵まれていることにすぐ気づかれたはずです。その後、クロー先生が北大の客員教授として家族とともに半年間札幌に滞在するということもあり、先生とクロー先生の友情は、はたから見ていても心あたたまるものがありました。先生が灰谷現会長や遠藤副会長とともに奔走され、一九八七年に協会の創設を果たした背景には、クロー先生とのこのような友情があったと思います。先生はその後、七年間にわたって事務局長を努められました。

先生は、クロー先生に代表されるほんもののヨーロッパを深く理解し、また愛してもおられました。特に学問と芸術を尊敬し、礼節を重んじるポーランドの人々とのつきあいを心から楽しんでおられました。ヨーロッパの他の大国と人々と違って、やや内気でシャイで、文化的なおしつけがましさがないところが良いのだとも話しておられました。洗練された教養人であった先生は、ポーランドの人たちと心の深いところで触れあうことができたのだろうと思います。

ポーランド協会のこれまでの活動には、先生のご性格が良く反映されていました。ポーランドの音楽、文学、歴史、美術、舞台、映画、学問などを愛する人たちが、自らの意志で、それぞれのやり方で例会を企画し、形にとらわれない創意あふれる活動を展開してきました。先生ご自身の発案による機関誌「ポーレ」は、協会のこのような活動をいきいきと伝えてきました。最近完成した一五周年記念誌でポーレの抜粋を通読して、生前にこれをご覧になったら、先生がどれほど喜ばれたことだろうと思いました。

精神的な支柱のお一人であった先生を失って、私たちが感じる喪失感と寂寥感は如何ともしがたいところがあります。しかし、一方では特定の個人の意志や指示ではなく、さまざまな人たちのさまざまなアイディアや献身的活動によって支えられてきたのが私たちの協会の特徴でもあります。先生のご逝去とともにポーランド協会は一つのステージを終えたことになりますが、新しい世代が新しいステージに颯爽と登場することを願ってやみません。

（事務局長）

事業計画決まる

本年度総会

本年度の総会が二〇〇三年十月一七日（金）午後六時三〇分より　遠友学舎（北区北一八西七）で行われました。

●総会

会長挨拶　灰谷慶三

1　二〇〇二・二〇〇三年度事業報告

2　二〇〇二・二〇〇三年度決算報告・監査報告

3　二〇〇三・二〇〇四年度の事業計画（案）および予算（案）

4　その他

●懇親会

開会挨拶と乾杯

舞踏家　竹内美花さんの舞いとお話

会　食

閉会の挨拶

乾杯―Sto lat

（司会　三浦　洋）

1　二〇〇二・二〇〇三年度の事業報告

①第四六回例会：佐藤泰一氏の講演「戦場のピアニスト、シュピルマン」

七月一七日（木）北海道教育文化会館（参加者三八名）

②ポーレ発行　第五二号（三月二五日）第五三号（九月三〇日）

計二回

③総会　二〇〇二年一〇月四日（かでる2・7）

④運営委員会　六月一八日

⑤十五周年記念誌編集委員会

三月二六日、五月七日、五月二八日、六月一八日、七月二二日、九月三日

2　二〇〇二・二〇〇三年度決算報告・監査報告

【五頁　上段】をご覧下さい。

当協会の二〇〇二・二〇〇三年度の会計処理について監査実施の報告

3　二〇〇三・二〇〇四年度の事業計画（案）および予算（案）

【五頁　下段】をご覧下さい。

①十五周年記念誌刊行

②ピアノコンサート

③ポーランド語講習会（希望により随時行う）

④その他

会誌ポーレ発行（二回）

総会二〇〇四年一〇月ごろ

運営委員会：二回程度

3　二〇〇二・二〇〇三　年度役員（一年任期）（案）について

〈顧　問〉　谷本一之

〈会　長〉　灰谷慶三

〈副会長〉　遠藤道子

〈運営委員〉

安藤　厚

薄井豊美

小笠原昭子

柏倉　涼子

菊地多美絵

佐光　伸一

霜田千代麿

小林　美保

中島　洋

本間　富雄

三浦　洋

渡辺　卓

〈ポーレ編集委員〉

小笠原正明

小林　美保

佐光　伸一

三浦　洋

〈監査委員〉　富山　信夫

〈事務局長〉　吉野　悦雄

小笠原正明

4　その他

十五周年記念誌進捗状況について

普通会員の会費について

懇親会でのスナップ

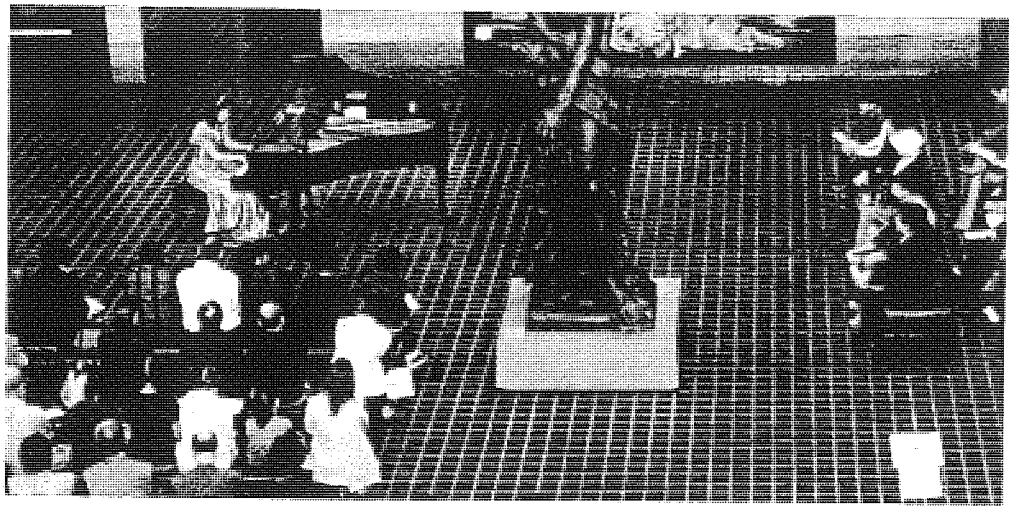
2002-03年度会計決算書（自2002年10月1日～至2003年9月30日）

【収入の部】	予　算	決　算	内　訳　　単位：円
会　費	300,000	325,320	全額の80.5%, 郵便振替払出料差引後
その他	30	0	銀行利息.寄付
小　計	300,030	325,320	
繰越金	314,919	314,919	
合　計	614,949	640,239	
【支出の部】			
事業費	120,000	83,090	例会: 60,000 総会:11,383
連絡費	40,000	34,010	ポーレ発送,はがき・切手他
編集費	40,000	8,640	ポーレ制作費, 原稿料他
15周年記念誌準備資金	150,000	50,000	
会合費	30,000	32,545	運営委員会他
事務費	100,000	100,126	人件費,事務用品
予備費	134,949	40,110	封筒,書籍
小　計	614,949	348,521	銀行預金:20495 郵便局:189,250 現金:81,973
繰越金	0	291,718	
合　計	614,949	640,239	

2003-04年度会計予算　（自2003年10月1日～至2004年9月30日）

【収入の部】	前年度決算	予　算	内　訳　　単位：円
会　費	325,320	160,000	2000円*80人
その他	0	0	
小　計	325,320	160,000	
繰越金	314,919	291,718	
合　計	640,239	451,718	
【支出の部】			
事業費	83,090	80,000	総会,例会等
連絡費	34,010	25,000	ポーレ発送他
編集費	8,640	8,000	ポーレ制作費他
※15周年記念誌補助	50,000	135,000	
会合費	32,545	30,000	運営委員会他
事務費	100,126	100,000	内訳：ポーレ編集印刷発送費（1回分）2万 経理事務3万　会員名簿会費管理3万　総会準備他2万
予備費	40,110	73,718	
小　計	348,521	451,718	
繰越金	291,718	0	
合　計	640,239	451,718	

※15周年記念誌補助（案）	収　入	支　出	
記念誌収益	150,000		(1,500円*100冊)
記念誌印刷		210,000	
郵送代		50,000	
人件費		25,000	
	150,000	285,000	**-135,000**



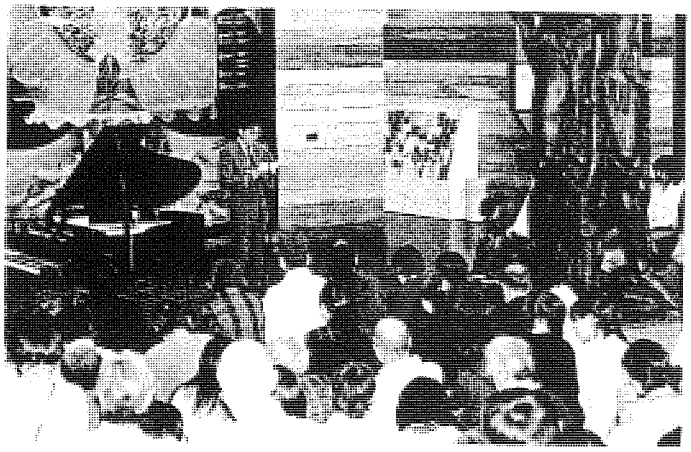
第四七回例会

盛況だったコンサート

さる五月一日に道立近代美術館ロビーで、北海道ポーランド文化協会主催の二回目のピアノコンサートが開催されました。

「フランス時代のショパンとその作品」と題されたコンサートでは、会員の小林美保さん、片寄ますみさん、ウィリアムス美由紀さんがショパンの名曲十二曲を演奏したほか、三浦洋さんがフランス時代のショパンのエピソードを紹介。集まった約百五十人の聴衆は熱心に聴き入りました。

当日は、ピアニストの遠藤郁子さんも飛び入り参加され、映画「戦場のピアニスト」で話題となったショパンの遺作のノクターンを弾いて盛んな拍手を受けました。天気のよい土曜日の午後であったことも幸いして、盛況のコンサートでした。



会費の納入はお済みですか？

（2003年 10 月～2004 年 9 月分）

当会は、皆様からの年会費によって運営されています。
上記の年度分の会費の納入を宜しくお願いいたします。

《会費振込銀行口座》
北洋銀行 大通支店
（普）301-0605084
北海道ポーランド文化協会
事務局長小笠原正明

《郵便振替口座》
02740 - 5 - 19735
北海道ポーランド文化協会
普通会員（年　額）　3,000円
維持会員（年額1口）5,000円

「ポーレ」編集委員会
小笠原正明・柏倉 涼子
小林 美保・佐光 伸一
三浦　洋
☎ 011-386-3405
FAX 011-387-9016
〔連絡先〕 小笠原

北海道ポーランド文化協会会誌

POLE 第 54 号（2004 年 6 月）

目　　次

山川素子〈リレーエッセイ〉「ワルシャワ点描」 1
小笠原正明「[初代事務局長] 吉田宏先生を悼む」 3
事業計画決まる～ [第 17 回 2003−2004 年度] 総会報告 [2003.10.17] 4
〈第 47 回例会〉盛況だった [第 2 回美術館] コンサート [2004.5.1] 6